

燦華の会

(さ ん か の か い)

本年度も、新型コロナウイルス感染症の猛威が収まらず、本校の教育活動にも多大な影響を及ぼしました。9月の臨時休業・分散登校をはじめ、卒業生の皆さんにとって、高校生活最後の思い出となる記念祭バザーも中止せざるを得ない状況でした。そんな中ではありましたが、運動会は、縮小しての実施、文化祭は9月から11月に延期しての実施となりました。

また、インターハイをはじめ、多くの活動が中止、あるいは無観客開催等となりました。これまで積み上げてきた成果を確かめたり発表したりする場を奪われ、努力が報われない場面にも遭遇してきました。

皆さんが中心となって活動した昨年の生徒会。感染症対策のために、従来の方法が全く取れませんでした。諦めることなく創意工夫しながらオンラインを駆使した新たな道筋を見事に示してくれました。

学習面においても、国の方針が二転三転した共通テスト・総合型選抜・学校推薦型選抜という新たな入試制度の転換期でもあり、皆さんにとって、かなり翻弄され、その対策にも苦慮した三年間だったことでしょう。

この感染症は、現在はかなり沈静化していますが、今冬には、第6波が到来すると予測されており、第3回目のワクチン接種も検討されています。これまで当たり前と思っていた日常生活を取り戻すまで、まだ暫くは時間がかかる様相と言えます。まさに、試練の連続と云っていい三年間でした。

しかしながら、こうした苦境に立たされながらも、常に今できることに全力を尽くしながら学校生活を送っていた皆さんの姿や行動は、あざやかにきらめくとともにとても華やかさを醸し出していました。

こうしたことから、卒業名は、「燦華の会」と名付けました。

言うまでもなく、「燦」の文字は、「燦燦」「燦然」「燦爛」と使われるように、「あざやかに光り輝く様子」を意味しています。

「華」の文字は、「華道」と表現し「草木の花」を示すこともありますが、「華美」「華麗」「豪華」など「目立って美しい、華やか」という意味で、また、「栄華」「繁華」と表現し「さかえる」という意味でも使用されています。

この卒業名を決めたとき、本校の校章のデザインが目には浮かびました。

校章の星と光線は、「聖母マリア様の暖かな愛の光に導かれ、私たちの心も希望に満ち、清純に健やかに育まれるように」との願いが込められています。

この閉塞感漂う現状から平和と希望に満ちた華やかな日常を取り戻すために、皆さんも、マリア様の生き方に倣い、燦爛たる星の光となり、「その光を投げかけながら朝(平和と希望)の訪れを告げ、人々に今日を生きる力と喜びを与える」ことができるような人になってほしいとの願いも「燦華」の文字に込めました。

五つの校訓とともに、これまで培った「而今」「命・怒・感謝の心」を大切にしながら、これからも、「燦華」の文字が示すように、華やかに（美しく）、そして、あざやかに光り輝いてください。そのためにも、「今」という時間を大切に生きることが大切です。

あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかになります。明らかにされるものはみな、光となるのです。
(エフェソの信徒への手紙 5章 8-14)

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためです。
(マタイによる福音書 5章 14-16)

【マリ・テレーズ・ド・スピラン】

過去や未来ではなく、今の瞬間に全力を尽くすことです。